

長井 充

ピアノアルバム2014 80歳記念録音

Mitsuru Nagai Piano Album 2014

- ①～③ クレメンティ／ソナチネ ハ長調 作品36-3
- ④～⑤ ベートーヴェン／ピアノソナタ ト短調 作品49-1
メンデルスゾーン／『無言歌集』より
- ⑥ 『信頼』作品 19-4
- ⑦ 『デュエット』作品 38-6
- ⑧ 『春の歌』作品 62-6
- ⑨ ショパン／『幻想即興曲』嬰ハ短調 作品 66
- ⑩ ショパン／『即興曲』第2番 嬰ヘ長調 作品 36
- ⑪ ショパン／『華麗なる変奏曲』変ロ長調 作品 12
- ⑫～⑮ ショパン／ピアノソナタ第2番 変ロ短調 作品 35 『葬送』

収録時間(65:13)

24bit/96kHz
Digital Mastering

長井 充 FAX:03-5706-3231

14.11.15 (L) (C) (P) MAESTRO Inc.

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO
NAGAI-2014

録音:2014年9月12日かながわアートホール
録音技術・マスタリング・デザイン:佐々木 修
企画・制作・販売:株式会社マエストロ
〒231-0848神奈川県横浜市中区鷺山75-19
TEL:045-349-6540 FAX:045-349-6541
maestro@music-tel.com

長井 充

ピアノアルバム2014

Mitsuru Nagai Piano Album 2014



80th anniversary

クレメンティ／ソナチネ ハ長調 作品36-3

Muzio Clementi: Sonatina in C-Dur Op.36-3

| | | |
|---|--------------------------|------|
| 1 | 第1楽章 Spiritoso..... | 4:10 |
| 2 | 第2楽章 Un poco Adagio..... | 1:24 |
| 3 | 第3楽章 Allegro..... | 1:23 |

ベートーヴェン／ピアノソナタト短調 作品49-1

Ludwig van Beethoven: Piano Sonata No.19 in g-moll Op.49-1

| | | |
|---|--------------------------|------|
| 4 | 第1楽章 Andante..... | 4:37 |
| 5 | 第2楽章 Rondo, Allegro..... | 3:42 |

メンデルスゾーン／『無言歌集』より

Felix Mendelssohn: "Lieder ohne Worte"

| | | |
|---|---|------|
| 6 | 『信頼』 Moderato, in A-Dur Op.19-4..... | 1:39 |
| 7 | 『デュエット』 Andante con moto, "Duetto" in As-Dur Op.38-6..... | 3:31 |
| 8 | 『春の歌』 Allegretto grazioso "Frühlingslied" in A-Dur Op.62-6..... | 2:09 |

| | | |
|---|---|------|
| 9 | ショパン／『幻想即興曲』嬰ハ短調 作品66..... | 4:47 |
| | Frédéric Chopin: "Fantaisie-Improptu" in cis-moll Op.posth.66 | |

| | | |
|----|---|------|
| 10 | ショパン／『即興曲』第2番 嬰へ長調 作品36..... | 5:18 |
| | Frédéric Chopin: "Improptu" No.2 in Fis-Dur Op.36 | |

| | | |
|----|--|------|
| 11 | ショパン／『華麗なる変奏曲』変ロ長調 作品12..... | 8:12 |
| | Frédéric Chopin: "Variations brilliantes" in B-Dur Op.12 | |

ショパン／ピアノソナタ第2番 変ロ短調 作品35『葬送』

Frédéric Chopin: Piano Sonata No.2 in b-moll Op.35 "Funeral March"

| | | |
|----|-----------------------------------|------|
| 12 | 第1楽章 Grave, Doppio movimento..... | 7:32 |
| 13 | 第2楽章 Scherzo..... | 6:39 |
| 14 | 第3楽章 Lento "Marche Funèbre"..... | 7:51 |
| 15 | 第4楽章 Finale, Presto..... | 1:45 |

total(65:13)

《長井充が語るピアノとの出会い～中学》

私は3歳から姉の指導でピアノを始めました。昭和16年小学1年生(国民学校)の時、大東亜戦争が勃発しました。小学2年生の時、近所のピアノ教師、市野正義先生に師事します。秋のピアノ発表会が私の初舞台で、クレメンティ作曲ソナチネ作品36-3の第3楽章《CDのトラック3》を演奏しました。小学3年生の時、山田康子先生に師事します。この先生は素晴らしい先生でしたが、物凄く怖い先生で叩くくらいは朝飯前。練習しないでレッスンに行くと、何時も叱られて叩かれ、ペダルの踏み方が悪いと皮のスリッパで足を蹴られて、痛くて痛くて泣きながらレッスンを受けるのが常でした。ある時余りに叩かれ叱られ、泣きながら「ピアノなんか止めた」と言っ、電車の窓《右下写真》から楽譜の入ったかばんを外に投げて家に帰ると「お前はピアノを弾かないでどうするんだ」と叱られ、またピアノを弾かされました。その時弾いていた曲がベートーヴェン作曲ピアノソナタ作品49-1の第3楽章《トラック5》です。



左が兄の長井 啓 右が長井 充



昭和初期の阪堺電気軌道

昭和20年、小学5年生の時終戦を迎えます。昭和22年、中学1年生の時、NHKが敗戦で気力を失っている国民を慰め力づける為に、全国で音楽をしている人に放送させる計画を立て、東京・大阪・福岡の放送局から生演奏を放送をさせましたが、大阪で名前が上った1人が私でした。その時演奏したのが、ショパン作曲「幻想即興曲」作品66《トラック9》でした。その頃の私は体も小さく、手も小さくオクターヴがとどかなかったのですが、山田先生は私の将来を予見してこの曲を弾くように指導して下さいました。メンデルスゾーン作曲無言歌集より『春の歌』《トラック8》は手がよく開くようにと、この時代に練習した曲です。昭和24年、中学3年の秋、山田先生最後の発表会では、高校生や大人の人達もおられたのに、私が一番最後に演奏するようにと配慮されました。その時演奏したのがショパン作曲「華麗なる変奏曲」作品12《トラック11》でした。この頃は輸入楽譜など無い時代で、父が2晩徹夜して写譜してくれた事を忘れる事はできません。私は今もその楽譜を持っています。



堺の海岸で、左が長井充、右が兄の啓



中学生のころ



大阪音大で祖父の銅像を見る



父:長井^{おし} 斉



1958年、左が兄の長井^{たか} 弘、右が長井 充



1961年大阪でのリサイタル

ピアニスト長井充～80歳記念アルバムによせて 佐々木 修

《名家の子孫として》

長井充(ながいみつる)は自らの輝かしい家系について話すことはほとんどありません。むしろ親の七光りで、特に関西で仕事をするのを、かたくなに遠ざけてここまで生きてきました。しかし長井の音楽を語る上で欠くことができないのがその家系です。長井充①の父は、日本で最初にメサイヤやモーツァルトのレクイエムを指揮した合唱指揮者の長井斉(ひとし)②(勲五等旭日双光章、明治26年生)で、関西学院高等部教授や大阪音楽学校校長をつとめた名士です。2013年には「長井斉生誕120年記念会」が大阪で開かれていることから、その業績と人柄が偲べれます。母方の家系はさらに華やかで、母の長井義(よし)③(明治35年生)は、大阪音楽大学の創設者である永井幸次④(正五位勲三等、藍綬褒章、明治7年生)の長女です。長井充は昭和9年(1934年)日本近代名士家系に掲載されるほどの名家の三男として大阪府堺市に生まれました。長井充は永井幸次の孫として、幼い頃から徹底したピアノ教育を受けました。もともと永井幸次は七男七女の子供がいたので、その孫の合計は数十人に上り、それぞれが競争していたと想像出来ます。永井幸次の子供や孫で音楽を志した者は、大阪音楽大学で学び、その後大阪音楽大学で教えるのがあたり前でしたが、長井は東京藝大ピアノ科を目指す事になります。東京藝大は言うまでもなく日本で最難関の音楽大学です。二浪の後、長井は見事東京藝大に合格します。この時点で、長井は当時の日本人としては最高レベルのピアノのテクニックを有していたと想像できます。また、父母共にクリスチャンの家系であったことは、長井のその後の人生に大きな意味を持ちます。毎年お正月には、永井幸次の元に一族が集合しました。



1959年6月1日(於:東京藝大旧奏楽堂)



ピアニスト長井充～80歳記念アルバムによせて 佐々木 修

《名家の子孫として》

長井充(ながいみつる)は自らの輝かしい家系について話すことはほとんどありません。むしろ親の七光りで、特に関西で仕事をするのを、かたくなに遠ざけてここまで生きてきました。しかし長井の音楽を語る上で欠くことができないのがその家系です。長井充①の父は、日本で最初にメサイヤやモーツァルトのレクイエムを指揮した合唱指揮者の長井斉(ひとし)②(勲五等旭日双光章、明治26年生)で、関西学院高等部教授や大阪音楽学校校長をつとめた名士です。2013年には「長井斉生誕120年記念会」が大阪で開かれていることから、その業績と人柄が偲べれます。母方の家系はさらに華やかで、母の長井義(よし)③(明治35年生)は、大阪音楽大学の創設者である永井幸次④(正五位勲三等、藍綬褒章、明治7年生)の長女です。長井充は昭和9年(1934年)日本近代名士家系に掲載されるほどの名家の三男として大阪府堺市に生まれました。長井充は永井幸次の孫として、幼い頃から徹底したピアノ教育を受けました。もともと永井幸次は七男七女の子供がいたので、その孫の合計は数十人に上り、それぞれが競争していたと想像出来ます。永井幸次の子供や孫で音楽を志した者は、大阪音楽大学で学び、その後大阪音楽大学で教えるのがあたり前でしたが、長井は東京藝大ピアノ科を目指す事になります。東京藝大は言うまでもなく日本で最難関の音楽大学です。二浪の後、長井は見事東京藝大に合格します。この時点で、長井は当時の日本人としては最高レベルのピアノのテクニックを有していたと想像できます。また、父母共にクリスチャンの家系であったことは、長井のその後の人生に大きな意味を持ちます。毎年お正月には、永井幸次の元に一族が集合しました。

1936年



左から長井充、母の義、兄の啓



祖父の永井幸次

《長井充の音楽性の秘密》

東京藝大に学ぶ前、大阪音楽大学付属高校在学中の長井充は、テクニックがある上に初見が利く事から、よく西野バレエ団の稽古ピアノのアルバイトをしました。有名なバレエ作品「ジゼル」(アドルフ・アダン作曲)の日本初演の際の稽古ピアノも弾いています。音楽評論家の出谷啓は長井の演奏を『いずれの演奏にも共通しているのは、年齢を感じさせない若々しさである。高齢の演奏家はときとして、リズムの硬直による老化現象を呈するが、長井のピアノには、そうした要素が一切認められず、どこまでも音楽の流れが自然なのは、驚嘆に値する』と評しています。長井充の自然な、流れるような音楽性、リズム感の良さは、この時代のバレエの稽古ピアノの経験が大きいと感じます。

《ピアノを捨て信仰へ》

東京藝大を卒業した長井充は、信仰を通じて出会った妻、頼子(よりこ)と結婚します。その後極貧の新婚生活を経て、武蔵野音楽大学の講師(後に助教授)の職を得ます。この時期の長井は、折からのピアノブームで、これまでになく裕福な生活をしました。普通ならば、このまま定年(65歳)まで勤め上げ、悠々自適の老後を送るものですが、長井は60歳を前に突然武蔵野音大を辞し、家とピアノを売り払い、財産はすべて献金し、地方で信仰の生活に入ります。何故そのような決断をしたかは判りませんが、常識では考えられないことだけは確かです。

《再び音楽のある生活へ》

10年間におよぶ音楽とは無縁の信仰の生活、あえて言わせて頂くならば、放浪の生活の後、70歳になった長井夫婦は東京に戻り、世田谷の木賃アパートの一室で再スタートを切ります。部屋には古びた電子ピアノがあるだけです。このことが一時期『ピアノを持っていないピアニスト!?!』と話題になりました。この状況は今も変わっていませんが、日本で生まれ育った人間が、一生日本語を忘れないように、長井にとってピアノ演奏は「呼吸」そのものなのです。『弘法筆を選ばず』とは長井のためにある言葉です。

《小さな奇跡》

長井充は近所のレストランでピアノ演奏のアルバイトをすることになりました。以前は名家の子孫、あるいは東京藝大卒、武蔵野音大助教授といった肩書きでピアノを弾いていましたが、もうその肩書きはありません。レストランでは、だれも自分のピアノを聴いてくれないと絶望したこともあったそうです。しかしある時気がつくと、幼い子供がピアノの前に立って、じっと長井のピアノを聴いていました。評判が評判を呼び、人が集まりました。すると、ある好事家が長井のCDを制作したいと声を上げました。そして長井にとって最初のCD「ピアノアルバム2007年」の収録の際の映像がYouTubeにアップされ、翌日、長井充は世界的なピアニストになりました。小さな奇跡が起こった瞬間です。



2011年東京文化会館でのリサイタルにて



1976年ころ田園調布の自宅にて

『涙が出るほど「つむぎ歌」感動しました！もうなんて言って良いか分かりません。すごすぎる！』『著名な方の演奏をいろいろ聴きましたが、長井さんの演奏が一番心に響きます。当方まったくの素人で言葉では上手く説明できませんが、「琴線に触れる」という感覚ってこういう事なんですね』『私が昔弾いたブルグミュラーは退屈な練習曲でした。でも長井さんの演奏に触れて、その考えが180度変わりました。私は再びピアノに向かいます！』これはYouTubeで長井充の演奏を聴いた230万人の方の書込みのごく一部です。

